



【鈴木 茂 プロフィール】

- ・昭和30年生れ。
- ・大石小・中学校、熊谷高等学校、明治大学法学部卒業。
- ・大宮市立（現さいたま市）春里・泰平・指扇中学校教諭。
- ・大石小・中学校 PTA 会長。
- ・全埼玉私立幼稚園連合会理事。
- ・上尾市議会議会報委員会委員長

【現在】

- ・上尾市議会議員二期目（無所属）福祉常任委員会所属、上尾政策フォーラム所属
- ・（学）浅間台幼稚園園長
- ・上尾私立幼稚園協会副会長。
- ・（社福）特別養護老人ホーム「パストーン浅間台」理事長

問い合わせ先 後援会事務所 〒362-0073 上尾市浅間台2-18-3
 TEL 048-771-7656 FAX 048-774-5880 E-mail info@asamadai.ed.jp
 浅間台幼稚園 〒362-0076 上尾市弁財2-5-3 TEL 048-774-1046

みなさんこんにちは。上尾市議会議員 鈴木 茂です。6月2日から6月22日まで上尾市議会定例6月議会が開かれていました。私鈴木茂が6月16日に一般質問をしましたのでその内容を中心に報告させていただきます。

＜ I 子どもの居場所づくりと貧困対策について ＞

私達、上尾政策フォーラムは、4月27日、新座市立新開小学校へ放課後子供教室の視察に行き参りました。この新開小学校では、放課後子供教室と学童保育所の両方があり、放課後子供教室終了後に学童保育所に行く児童もいるとの事でした。長期休業日（夏・冬・春）も実施、2校では午前8:30～午後5時まで実施していました。この放課後子供教室が子どもの放課後の居場所づくりにとても重要で、特に母子家庭のような貧困対策にもつながっていくという考えに基づいて一問一答形式で一般質問をさせていただきました。

①放課後子供教室とはどのような施策か？

回答：埼玉県が実施している放課後子供教室推進事業は、放課後や週末に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子供達が勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進するものである。

②県内の実施状況は？

回答：平成28年度に県の補助を受けて実施しているのは、県内で37市町。

主な実施自治体と学校数 政令指定都市さいたま市も実施。

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
川口市	19校	所沢市	11校	熊谷市	29校	行田市	3校
鴻巣市	11	東松山市	4	秩父市	13	春日部市	13
草加市	19	狭山市	15	横瀬町	1	羽生市	5
蕨市	7	入間市	16	小鹿野町	4	久喜市	23
戸田市	12	富士見市	10	上里町	5	八潮市	9
志木市	8	坂戸市	3			三郷市	19
和光市	9	鶴ヶ島市	8			蓮田市	4
新座市	7	日高市	6			幸手市	1
桶川市	4	ふじみ野市	13			杉戸町	2
北本市	8	毛呂山町	4			越谷市	15
伊奈町	4	嵐山町	3			加須市	3

③実施した場合の補助金は？

回答：市町村が地域の実情に応じて積算した額のうち知事が認めた額の3分の2を上限として補助。

④市内の学童保育へ通う児童数は？

回答：平成27年度が1653人。平成28年度が1724人。平成29年度が1876人。

⑤新築した平方北小学童の規模、工事費、受け入れ可能な人数は？

回答：延床面積162平方メートル、工事費は約7500万円、受け入れ人数は、おおむね40人。

⑥平方北小の児童数、学級数、空き教室の数は？

回答：平方北小学校の児童数は、204人。学級数は10クラス。空き教室は7教室。

⑦大石南小学校の学童保育所新設のスケジュールと場所、大きさ、工事費は？

回答：改修工事設計業務を今月末までに完了した後、早期の着工に向けて入札、契約、年内の完成を目指す。整備場所は、大石南小学校北校舎1階のランチルーム部分で、規模は、延床面積250平方メートル。工事費は概算で約4300万円。

見解：つまり空き教室を使った方が、3,200万円も安くなるという事です。普通の家1件分の値段が違うという事が分かります。私は、この質問をするにあたり、平方北小学校と新しく作られた平方北学童に見学に行き参りました。新しい学童保育所は7,500万円掛かっていますので、当然きれいな施設でした。問題は、少子化人口減少社会になるのに1学年1クラスか2クラスしかなく、もしかしたら将来統廃合になるかもしれない空き教室が7つもある学校に7,500万円かけて教室以外の場所に作るのが政策的に妥当かどうかです。

⑧平方北小の学童保育所と上尾市行政改革大綱は、矛盾すると思うが？また、今後の学童保育所を新設する場合は、どのようにする方針なのか？

回答：上尾市行政改革大綱の方針に基づき、施設の有効利用や経費削減の観点から学校余裕教室等の活用を検討したが、学校の管理運営上の観点から校内配置は難しいと判断した。今後も学校の管理運営状況と児童の安全確保の課題を調整しながら、余裕教室等の活用を進めていきたい。

空き教室は7つもあるが、1階にはない、だからできないとの答弁です。しかし、先程紹介した新開小学校は2階の空き教室を使って放課後子供教室を行っていますし、その後、体育館も開放しています。

⑨パートで働いているお母さん方で、子ども達が学校にいる時間だけ働くという方がたくさんいる。一番困るのは夏休み等の長期休業中との事。そのような時だけ学童保育を利用する事はできるか？また、そのような制度が導入できるか？

回答：短期的な児童数増加への対応に必要な保育場所と指導員を確保できないから、長期休業中のみ利用できる制度はない。学童保育所登録児童数は、増加傾向であるから、そのような制度の導入は困難である。

⑩子どもの居場所作り、空き教室の有効利用という観点からも上尾市においても放課後子供教室を導入すべきと考えるが見解は？

回答：子どもが活動できる部屋やスタッフルームとしての転用可能な教室の長期的な確保、学校の管理・運営上の問題、コーディネーター、有償ボランティアなど大勢の人材確保など、多くの課題があることから、放課後子供教室の実施は、難しい。

⑪文部科学省や埼玉県が推奨し補助金も2/3出る。埼玉県内の市の数は40だがその内、37市や町が実施しており、桶川・北本市を始め近隣の殆どの自治体も実施しているのにも関わらず、実施ができないという上尾市の特別の事情があるのか？

回答：今後は、他市の事例を参考に、本市での取り組みについて研究していく。

資料 上尾市の母子世帯の状況

18歳未満の子どもがいる世帯数		母子世帯数	
平成7年	24,000世帯	600世帯	
平成22年	22,000世帯	1800世帯	3倍
平均収入	626万円	180万円	
貯蓄0~100万円	19%	52%	

子どもの貧困が社会全体に与える影響

*現状放置シナリオ…貧困世帯の子どもの進学率・中退率を放置

*改善シナリオ…進学率・中退率が改善するケース

	所得	税・社会保障の財政収入	上尾市(就学援助需給児童数1700人で試算)	
改善シナリオ	377.4兆円	99.9兆円	生涯所得の損失	1600万円×1700人=272億円
現状放置シナリオ	331.5兆円	83.9兆円	財政収入の損失	600万円×1700人=102億円
社会的損失	-42.9兆円	-15.9兆円		
子ども1人当たり	生涯所得1600万円減少	財政収入600万円減少		

⑫今年度から始まった一人親家庭の学習支援事業の概要は？

回答:児童扶養手当全部支給世帯の中学生を対象に今年4月から開始している。市内3か所の教室において、1回2時間週1回、受講者は33人。対象者157人なので参加の割合は21%。

⑬今までの2ヶ所が、会場使用料が無料なのに対して費用が発生しているとの事だが、会場使用料はいくらか？また、市の施設を利用すれば経費が掛からないと思うが、なぜ市の施設を利用しなかったのか？

回答:会場使用料は、1回当たり1万7千280円。市の施設を利用しなかったのは、上尾駅周辺で、年間を通して定期的に利用できる公共施設を確保できなかったため。

⑭私の知り合いの市内中学校の先生で、こういった取り組みに比較的に関心が高いと思われる先生でさえ、この事業を知りませんでした。中学校の現場の先生方は、この学習支援事業をどの程度知っており、またどのような認識を持っておられるのか？

回答:生活保護家庭や一人親家庭であること等は、極めて配慮すべき個人情報であるから、教職員がその事に関して、直接、当該生徒に対応することは差し障りがある。当該生徒に教職員が直接働きかける事や学校において周知することは差し控えている。

見解:学習支援教室の参加率の向上には、私は一貫して学校の協力が必要と主張して来ました。その回答が校長会でこの事業を説明しています。との回答でした。この答弁では、校長会に担当者が説明しても当該生徒や保護者のプライバシーの問題があるので、伝えていませんという事になると思います。私が、12月議会で紹介した足立区の子どもの貧困対策で、学校をプラットフォームにという姿勢と真逆です。「生活困窮家庭であって学習が遅れがちな児童生徒等に対する学習支援として、自立相談支援機関と教育委員会等が互いの事業の内容や実施状況を把握し、連携を図っていただくようお願いします。」という文部科学省の通知にも反すると思います。

この学習支援教室は、今年予算で1,592万円の税金が使われます。今年予算のポイントでも紹介される目玉政策です。それに教育委員会は、協力しませんという事と捉えられてもしょうがないかと思われます。現場の担任がその子が要保護家庭なのか、準要保護家庭なのか、母子家庭なのか、父子家庭なのか当然分かります。この個人情報と言ふなら当然問題ですが、それらの家庭事情を踏まえながら親身に相談に乗るのが本来の教育の姿だと私は思います。この答弁に見られる教育委員会の姿勢は、真に子どもの貧困対策について向き合おうとしないで、うわべだけの対応をしていると言わざるをえないと思います。これから空き教室が増えていく事でしょう。財政にもゆとりはなくなっていく事でしょう。どんどん新しい箱物を作れば維持費も加算していきます。空き教室の有効利用が求められると思います。新座市立新開小学校では、2階の空き教室を使って、宿題等の学習をします。元校長先生や教頭先生がコーディネーターになってその教室を管理します。地域の方が有償ボランティアで手伝います。宿題が分からない所があれば教える事もあります。地域の子を地域の方が面倒をみるのです。その後、体育館や校庭で地域の方と遊びます。千葉県我孫子市の少女誘拐殺人事件に見られるように、昔と違って保護者は我が子の事をほっておけない世の中だと思っています。しかし、母子家庭のような家庭では、常に子ども達に気を配ってとか、放課後習い事に行つてなどとは行きません。放課後の子供教

室があれば、無料で安心して子どもを預ける事ができるのです。これは、夏休み等の長期休業中になればなおさらなのです。豊かな家庭が塾や家族旅行に出かける時、貧困家庭の子が行く場がないという問題も解消されるのです。子どもが学校に行っている時だけパートで働くという女性はたくさんいます。問題はこの夏休みです。この夏休み等の長期休業中に学校で子ども達を預かってもらえたらどんなにか助かる事でしょう。地域でコーディネーターを中心に学習支援や居場所を提供する事が常態化すれば、やがて全ての中学校で学習支援教室が、NPOの団体の委託の他に地域によっては、地域のコーディネーターと有償ボランティアによって運営される学習支援教室が実施される。そして、それが子どもの貧困対策、学力向上、不登校対策、地域の治安の維持等に繋がっていくものだと確信しています。

<II シティセールスについて >

私達上尾政策フォーラムは、昨年10月11日に流山市に視察に行つて参りました。昨年の6月議会後私達は視察先に流山市を選び、議会事務局を通して視察を申し込みましたが、流山市では、視察が相次いでいて対応できないとの事で10月まで待たされました。私達が視察した駅前送迎保育ステーションとシティセールス、議会改革の3点で視察が相次いでいるとの事でした。

①市の税収の半分程度が市税だが、その市税の内訳は？

回答:市民税が147億1,800万円。固定資産税が116億940万円。軽自動車税が2億9,400万円。市たばこ税が12億8,900万円。都市計画税が22億3,900万円。

②上尾市平成29年度予算のポイントで新築家屋の増(固定資産税の増)等による市税の増、1億8千万と書かれているが、その内容は？

回答:固定資産税・都市計画税において、平成28年中に完成した家屋の新築・増築約1,000棟分の増。

③流山市の平成28年の子どもの転入数は816人。25歳～39歳までの転入者は1,940人で全国8位だが、上尾市の転出入は、子どもや25歳から39歳までの子育て世代は、どうなっているか？

回答:平成26年は、子どもが83人の転入超過。25歳～39歳は、395人の転出超過。平成27年は、子どもが75人の転入超過。25歳～39歳が171人の転出超過。

④上尾市のシティセールスは、どのような考えに基づき、どのようなシティセールスを行っているか？

回答:シティセールスの究極の目標は「定住人口の確保」であり、子育て世代をターゲットとして、「住んでみたい」「住み続けたい」と思ってもらえるよう「あげお」の魅力のPRに努めている。

見解:私達が視察した流山市は「母になるなら流山市」「父になるなら流山市」「都心から一番近い森のまち」のキャッチコピーで有名です。新図書館建設とパークゴルフ場建設が上尾市のシティセールスになるとの市当局の答弁が度々出されます。新しい建物や施設が全てシティセールスになるのでしょうか？上尾のICT教育がシティセールスになるとの答弁もあります。とても違和感を覚えます。6年ほど前に文教経済常任委員会で、三重県亀山市に行政視察に行きました。ICTをフル活用して街全体をICTで結ぶ的説明を受けた記憶があります。シャープの亀山工場がその数年前までテレビで宣伝されていた時でした。確かにそのような街でしたらICT教育が売りですと言っても確かに違和感はありません。しかしその後のシャープの没落はご存知の通りです。上尾市は政令都市の隣の街で、さいたま市より地価が安く緑もあります。という事を売りにするならば、ICT教育を売りにするよりは、私が取り上げた放課後子供教室を実施し、地域の方が面倒をみってくれるから安心です。助かります。という方が余程売りになると思います。上尾市がどんな街を目指すのか、どうやって都市間競争を勝ち抜くのか、その事を明確にしてそれに基づいた施策を着実に進める、そしてそれを上手にピーアールするそれが本当のシティセールスなのではないかと思ひます。

8月26日(土)午前10時～12時まで、鈴木茂と上尾市政を語る会を実施します。場所は浅間台幼稚園保護者用駐車場西側事務所(上尾市春日 2-27-24.普通の一軒家)です。お茶を飲みながら気軽に話し合ひましょう！上尾市政に対してのご意見をお聞かせ下さい。事務所☎716-7462